



中海の豊かな 自然を未来へ

プロジェクト始動から10年で泳げる中海を実現。2011年から中海で始まった「オープンウォータースイム」は、日本水泳連盟の認定大会に成長

喝を入れる。「だったら10年だ」と、何の根拠もなくその場の勢いで共通目標「10年で泳げる中海」を決定。まだ任意団体だった「中海再生プロジェクト」が目標に向けて動き出した瞬間だったと振り返る上田敏之理事。

の中海の景色は美しいが、水はまだ汚れ臭う。陸上には活動団体の発表の場を作り、参加者が学べる仕掛けを施した。2005年のラムサール条約登録を機に周囲の中海に対する価値観は変化。2006年から長野県諏訪湖の住民清掃活動をモデルにした「アダプトプログラム」に取り組み。30団体でスタートした活動は、現在93団体



広く市民に中海の魅力を知ってもらいたいと毎年開催している「体験クルージング」

「確実に中海はきれいになっている。水のおいしの変化や透明度、なにより海藻がどんどん沖の方まで生えてきている」と水質改善の手ごたえを語る内藤武夫理事長。プロジェクト誕生のきっかけは、2001年中海テレビ放送の企画番組「中海物語」。以前から個々に中海の環境保護活動をしてきた人たちが番組を縁に集まり議論を重ねた。2002年2月再び関係者が集まる。中海を何年で再生するか、汚した年数と同じ50年での再生を論議していた。同席した放送ジャーナリストの故・ばばこういち氏が「この中で誰が50年後の中海を見届けるんだ」と

中海の夕日を活用した「中海夕暮れコンサート」。未来の中海の姿を思い描いてほしいと始まった



となった。子どもたちが中海の将来像を描くポスターコンクールや中海の未来を想像する夕暮れコンサートなど「未来マップ」作成も始動。これらの三つの活動を軸に2011年からは「オープンウォータースイム」を開催し、泳げる中海を実現した。「昔の中海を知る人たちの知恵や思いを引き継いで次につなげなければ」と上田理事。内藤理事長は「中海の幸を食べさせたり、子どもたちを遊ばせたい。中海には遊び場にぴったりな砂地の場所があるんだ」とほえんだ。

NPO法人 「中海再生 プロジェクト」の事例

代表者のコメント

理事長 内藤武夫さん



中海は、この地域に暮らす私たちにとって、かけがえない貴重な財産です。この中海の豊かな自然環境を守り育てることで、街の活性化につなげ、市民の憩いの場になるよう、今後も活動を続けていきます。

NPO法人 中海再生プロジェクト

〈概要〉 ●所在地:米子市河崎610 中海テレビ放送内
●代表者:内藤武夫
TEL 0859-29-2854 FAX 0859-29-3210
ホームページ <http://gozura101.chukai.ne.jp/nakaumi/>

